

指定管理導入施設実績評価シート（令和5年度）

		施設所管課	福祉部障害福祉課
施 設 名	大津市立障害者福祉センター		
指定管理者	社会福祉法人大津におの浜障害者福祉協会		
指定期間	令和2年 4月1日 ～ 令和7年3月31日		
指定管理料	年額22,796,000 円(令和5年度) (総額113,982,000 円)		
設置目的	障害者の福祉の増進並びに自立の促進を図ることを目的とする。		
業務内容	・大津市立障害者福祉センター条例第3条に規定する事業の実施に関する業務 ・障害者福祉センターの使用許可に関する業務 ・障害者福祉センターの施設及び設備の運営管理に関する業務 ・その他市長が定める業務		

所管課 総合評価	I～IVによる総合評価	総合評価コメント
	B (良好)	5年間の指定期間の4年目。本年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、利用人数制限等の対応を終了し、引き続き基本的な感染予防対策を継続しつつ、利用の回復に向け、事業計画に基づき運営を行った。今後は、着実な利用者数の回復、満足度の向上を図っていく必要がある。

評価項目及び評価の視点		確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅰ 実施体制	施設の設置目的の達成 □ 施設の設置目的を十分に理解し、それを踏まえ管理運営に努めていたか。	条例、仕様書、事業計画書、事業報告書	A (優良)	法人の設立目的と同じであり十分理解し管理運営に当たっている。	B (良好)	施設の設置目的を踏まえて適切に管理運営されている。
	職員の勤務実績・配置状況・労働条件 □ 事業計画書に沿った職員を配置していたか。 □ 必要な資格、経験を有する職員を確保していたか。 □ 出勤状況、勤務形態等、労働条件が適正であったか。 □ 障害者の雇用促進に努めていたか。	仕様書、事業計画書、日報、勤務表、資格証、実地調査、労働条件モニタリング	A (優良)	事業計画の遂行に必要な資格を持った職員は配置している。勤務状況等適正で、管理業務に障害者を雇用している。	B (良好)	事業計画に沿った人員を配置し、適正な出勤状況、勤務形態、労働条件である。また、障害者雇用も積極的に行っている。
	職員の研修 □ 事業計画書に基づき、業務に必要な研修、教育が実施できたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、研修資料等	A (優良)	業務推進のため、必要な研修は外部研修も含め積極的に受講させている。	B (良好)	事業計画に基づいて、必要な研修等を実施している。
	法令等遵守 □ 関係法令、条例等を遵守していたか。	仕様書、関係法令等、実地調査	A (優良)	指定管理業務の執行に当たっては、関係法令や条例等遵守している。	B (良好)	法令・規則を遵守している。
	個人情報保護・情報公開 □ 個人情報・情報公開の取り扱いについて、協定書に基づき適切に行っていたか。	仕様書、協定書、管理方法（実地調査）	A (優良)	市や法人の規則に従い協定書に基づき適切に行っている。	B (良好)	適正に個人情報を取り扱っている。
	管理記録 □ 業務日誌等を適切に整備、保管していたか。 □ 点検結果や修繕履歴等を適切に記録・保管していたか。	日報、点検結果等関係書類、実地調査	A (優良)	業務日誌や修繕履歴等は適切に保管している。	B (良好)	管理記録、修繕履歴等を適切に整備・記録・保管している。
	連絡体制 □ 市と指定管理者間で十分に連絡、調整を行っていたか。 □ 事業計画書、月報、事業報告書、その他報告書等の提出や内容が適正であったか。	仕様書、事業計画書、事業報告書等関係書類	A (優良)	市の担当課とは常に連絡調整を図り、事業計画書、その他報告書等適正に提出し内容は適正であった。	B (良好)	必要な連絡・調整について十分に行っている。
	緊急時対応 □ 事故・災害等の緊急時の連絡体制が確保されていたか。 □ 緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行うなど、職員への指導徹底を図っていたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、緊急時対応マニュアル	A (優良)	近年、社会福祉法人の必須事項として求められているBCPマニュアルを作成し、事故・災害時の連絡体制等の整備を行い、それを職員に指導徹底を図った。	B (良好)	緊急時マニュアルを整備し、定期的に訓練を実施している。
	《Ⅰ 総 括》 業務の実施体制に関する評価【標準8項目／当施設8項目】		A (優良)		B (良好)	

指定管理導入施設実績評価シート（令和5年度）

評価項目及び評価の視点		確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅱ 内容・水準	施設管理 ☐ 開館日、開館時間を遵守していたか。 ☐ 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じていたか。	条例、規則、仕様書、事業計画書、日報	A (優良)	市の条例規則により開館し、利用にあたっては安全確保の対策を行ってきた。一部に利用時間の延長(17時以降)の希望があることも申し添える。	B (良好)	開館日、時間を遵守している。適宜巡回を実施し安全確保に努めている。
	利用状況 ☐ 利用者数、稼働率等が前年度実績や目標と比較し適正な水準であったか。	事業計画書、事業報告書	A (優良)	コロナ5類移行に伴い規制は緩和されたこともあり利用人員は163%増を認め、同時に利用団体等にも周知を強めたので貸室回数も5/4倍を記録したことは一定目的を達成したと自己評価する。	B (良好)	コロナ禍前の水準に向け、一定の回復傾向にある。
	利用者対応 ☐ 利用許可や案内等、職員の対応は迅速かつ適切に行っていたか。 ☐ 服装、言葉遣い、接客態度等の接遇は適切であったか。 ☐ 利用者に対して設備、備品等を適切に提供したか。	業務マニュアル、意見・苦情等受付簿、アンケート、実地調査	A (優良)	利用許可等の対応は迅速かつ適正に行った。接客態度も適切だった。設備、備品等は必要に応じて提供した。	B (良好)	障害者に配慮した対応を適切に行っている。
	業務運営(全体) ☐ 事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか。 ☐ 利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、実地調査	A (優良)	事業計画に基づき実施し利用者から喜ばれている。市の条例により利用できる対象者が限定されており市民サービスも限定的である。	B (良好)	事業計画に基づき、施設の目的にあった事業を実施している。
	自主事業運営 ☐ 自主事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか。 ☐ 利用者の満足度を高める工夫がされたか。 ☐ 事業の実施により市民サービスの向上に効果があったか。 ☐ 施設の設置目的に沿った自主事業を実施したか。	仕様書、自主事業計画書、自主事業報告書、実地調査	A (優良)	事業計画に基づき障害者IT事業を実施し、利用者から喜ばれている。障害者のパソコン操作の習得に貢献している。法人独自で「おおつならではの就労移行支援事業:スコラ」を開始し、障害者の就労に資する取り組みを展開しているが、その一環としてパソコンをカリキュラムとし、IT事業と連携し協力を得た。自立訓練事業の認可を受け、4月よりおおつならではの就労移行支援事業「スコラ」を開始している。これに付いては市当局と協議の上でセンター一室(軽スポーツ室)の占有を認めていただき進めることができている。カリキュラムによっては、センター内の別室も随時使用しているが、スコラに通う利用者の増加により利用者の社会参加の促進はもとより、地域に注目されることで市民による障害・障害者理解が進むことが期待される。デイサービスでは手話サークルを従前より実施しているが、今期、自主事業として別途「手話講座」を開催し、近隣マンション等へのポスティングを行い周知し、7回の開催でのべ97名の参加を得られた。	B (良好)	障害者のパソコン操作習得に寄与している。自立訓練(生活訓練)を開始し、養護学校高等部卒業後の進路先の確保に努めた。地域住民を対象とした手話体験講座は、福祉センターの地域における役割の一環として有意義であると考える。
	維持管理 ☐ 施設、設備の保守管理(点検・修繕)を計画的に実施したか。 ☐ 修繕が必要な箇所について、適切に対応したか。 ☐ 日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか。 ☐ 備品台帳に基づき備品を管理、修繕したか。 ☐ 植栽、樹木等の維持管理を定期的を実施し、美観が保たれていたか。	仕様書、備品台帳、点検結果、委託契約書、実地調査	A (優良)	施設設備の保守点検を実施し、必要に応じて修繕しているが、大規模な費用を伴う修繕については市と随時相談している。日常の清掃、保安、警備は適切に実施し施設の美観は保っている。市からの貸与備品は備品台帳に基づき管理している。	B (良好)	点検・修繕等は適宜、市に報告しながら計画的に実施している。
	情報提供 ☐ 施設案内、事業の開催案内等のパンフレット類を整備し、情報発信に努めていたか。 ☐ ホームページ等の管理及び更新は適切に行っているか。	パンフレット・ホームページ等、実地調査	A (優良)	施設案内やセンターだよりを発行し情報発信に努めた。ホームページも必要に応じて更新し、独自事業である「スコラ」についてもホームページにupし、福祉センターが貸館業務以外にも障害各分野の増進に資するものとなっていることをアピールした。	B (良好)	センターだよりの発行やホームページの更新を通じて情報発信に努めている。
	環境配慮 ☐ 省資源、省エネルギー等環境への配慮、リサイクル等の推進等に努めていたか。	関係書類、実地調査	A (優良)	環境に配慮し省資源、省エネルギー、リサイクルの推進に努めた。	B (良好)	省エネルギー、リサイクルの推進に努めている。
	意見・要望・苦情 ☐ 意見・要望・苦情等を把握する仕組みを確立しているか。 ☐ 要望・苦情等の対応に迅速かつ適切に対応し、可能なものは管理運営に反映していたか。	事業計画書、事業報告書、日報、アンケート	A (優良)	社会福祉法の規定により苦情解決のための第三者委員会を設置している。今のところ案件はない。	B (良好)	第三者委員会を設置し、仕組みを確立している。苦情等にも迅速に対応している。
	利用者アンケート ☐ 利用者アンケート調査等を実施するなど、利用者ニーズを積極的に把握し、その結果を管理運営に反映していたか。	事業計画書、アンケート、実地調査	A (優良)	アンケートも実施しているが、普段から利用者との関係を築き意見を把握し管理運営に反映させてきた。	B (良好)	アンケートを実施して利用者意見を把握し、ニーズにあった運営に努めている。
	《Ⅱ 総括》 業務の内容・水準に関する評価 【標準10項目／当施設10項目】		A (優良)		B (良好)	

指定管理導入施設実績評価シート（令和5年度）

Ⅲ 収 支 等	経理事務 ☐ 専用口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行ったか。 ☐ 経理区分を設け、指定管理料を適正に執行していたか。 ☐ 料金徴収、減免、還付の手続きは適切に処理していたか。	預金通帳、出納帳、利用申請書・減免申請書等、実地調査（金庫等）	A （優良）	センターの利用は無料で現金の収受はない。その他経理事務は適切に処理している。	B （良好）	適正に管理できている。
	収支状況 ☐ 予算と決算に大幅な相違がなく、収入－支出はプラスとなっているか。 ☐ 収支状況が対前年度比及び当初の目標を達成しているか。	事業計画書、事業報告書	B （良好）	常に経費の見直し削減を図りながら健全財政となるよう努めた。独自事業の「スコラ」発進により法人本年度の単事業としての赤字は予定しているので社会福祉充実残額をもって、それに充てる計画で進めている。なお、令和6年度にあっては新規利用者拡大の中で黒字転換を見込んでおり、法人経営に心配はない。	B （良好）	適正である。
	経費節減の取組 ☐ 経費削減に向けた取り組みを積極的に実施し、その効果が上がったか。 ☐ 清掃、警備、保守点検、修繕等の第三者への委託が適切な水準、内容で実施されたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、委託契約書、実地調査	A （優良）	施設が古く修繕は多いが可能な限り業者に頼らず職員が対応し経費の削減を図っている。清掃は障害パート職員により内製化している。	B （良好）	空調の利用を工夫するなど、節減に努めている。
	《Ⅲ総括》 経費の収支等に関する評価【標準3項目／当施設3項目】			A（優良）		B（良好）
	その他 ☐			該当無し		該当無し
自Ⅳ の そ 取 の 組 他 等 （ 独	《Ⅳ総括》 その他に関する評価【当施設 項目】					

主な成果 （全体）	使用料（利用料）	目標	円	⇒	実績	円
	稼働率	目標	%	⇒	実績	%
	利用者数	目標	5,850 人	⇒	実績	7,630 人
	【指定管理者コメント】 5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、利用人数制限等の対応を終了し、引き続き基本的な感染予防対策を継続しつつ運営を行い、前年度と比較して一定の利用者数の回復が図れた。					
	【施設所管課コメント】 5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、利用人数制限等の対応を終了し、引き続き基本的な感染予防対策を継続しつつ、利用の回復に向け、事業計画に基づき運営を行った。今後は、着実な利用者数の回復、満足度の向上を図っていく必要がある。					

自主事業 実施による成果	＜主な自主事業の実施状況＞				
	事業名	指定自主事業・自主事業の別	事業内容	実施状況 （実施・追加・未実施）	特記事項（「未実施」の場合はその理由）
	障害者IT利用促進事業	自主事業	障害者のパソコン操作スキルの向上のためのパソコン教室の開催	実施	毎週月・木に開催。毎月第2・第4木は視覚障害者対象教室を開催、在宅支援は随時開催
	自立訓練（生活訓練）事業	自主事業	障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスで、自立した日常生活や社会生活ができるよう、必要な訓練を行う事業	実施	令和5年4月に自立訓練の指定を受け「におのはまスコラ」を開設。2年後には就労移行支援の指定も受け、おおつならではの就労移行支援を実施
	手話体験講座	自主事業	地域住民に周知しての手話講座の開催	実施	2月に7回開催
	【指定管理者コメント】 障害者がパソコンを習得することで、生活情報の収集を容易にし、楽しみや生活の質の向上に資するようにするとともに、パソコンを習得することで、就労に対する意欲の向上を図り、自立した日常生活及び社会生活が送れるよう事業運営に努めました。 自立訓練の指定を受け「におのはまスコラ」を開設しました。 手話体験講座は、福祉センターの地域における役割と障害福祉の実情を不特定多数の市民に知らせることができたと思う。今後もこう言った取り組みを進めていきたい。				
	【施設所管課コメント】 障害者のパソコン操作習得により、情報収集の拡大や生活の質の向上、就労意欲の向上等、情報アクセシビリティの向上に寄与している。 自立訓練（生活訓練）を開始し、養護学校高等部卒業後の進路先の確保に努めた。 手話体験講座は、福祉センターの地域における役割の一環として有意義であると思う。				

課題及び 課題解決 の結果	【指定管理者コメント】 冷暖房については、新規工事の実施により電気+ガスの使用から電気のみとなった、電気使用のデマンド管理を徹底しているので総額は微減となっている。全館の照明も老朽化で随所に不具合が散発しており、改修が求められているが今後の改修はLED化しか改修方法がなく費用面で課題がある。雨漏り等がおこった天井(屋上)部分の改修はしていただき、以降問題は起こっていない。しかし、平成12年の改修以来、当センターの補修は冷暖房設備と屋上の養生のみであり、今後、不測の環境悪化が心配されることは申し添えておく。早急の改修、補修のための予算化を望みたい。
	【施設所管課コメント】 施設の経年劣化に対する大規模修繕については、年次計画的に実施しており、令和6年度の配管工事をもって一連の大規模修繕は終了する予定である。

特記事項等	
-------	--

※評価基準：項目別評価、《総括》、総合評価の評価基準（A～D）は、モニタリングチェックシートと同様とする。

※評価手順

指定管理者自己評価

提出

所管課評価

通知

指定管理者

送付

行政改革推進課（ホームページ等により結果公表）